

## 第一問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

もう一つ、私たちが取り戻さねばならないものがある。それはわらべ唄である。

私の子供の頃は、毎日の生活の中にわらべ唄があった。学校でも遊び時間に「通りやんせ通りやんせ」や「小豆たつた煮たつた」や、「今年の牡丹はよい牡丹」で遊んだし、雨の日は教室で「おひとつ、おさらい」とお手玉で遊び、まりをつき、「せつせつせ」をした。「鬼ごっこ」も、鬼のいぬ間に洗濯ジャブジャブとうたつて洗濯のまねをし、鬼をからかったものである。学校から帰れば近くの友だちと、やっぱりまた「通りやんせ」をした。そんな時は大きい子も小さい子も一緒に、小さい子は「ミソツカス」と呼ばれたが、それでもお尻にくつついて歩き、放り出されたりはしなかった。

そのわらべ唄が聞こえなくなったのは、いつたい、いつ頃からのだろう。道を歩いていて、わらべ唄で遊んでいる子を見ることがなど、ほとんどなくなってしまった。

先日八歳になる下の娘が、「今年の牡丹はよい牡丹」といって遊んでいるので、どこで教えてもらったの、いま遊んでいるの、と聞いたら、「バレエスタジオでね、練習が始まる前にみんなで遊んでるの、小さい子の組のA子ちゃんに付き添ってくるおばあちゃんが、みんなに教えてくれたんだよ」といった。

**B** こういうかたちで伝えられてはいるのだかと、嬉しかったのだけれど、そんなことさえ珍しいと思えるのは、本当は情けないことなのである。じゃんけんぽんはできて、チキリハイヨ！ という激しい掛け声をかけ、火花を散らして争った「天下取り」や「ハンカチ落とし」をやることも少なくなったという。私たちが日常的に楽しんだ、

これらの指先を使う遊びをしなくなつたため、子供たちは不器用になり、工場で新採用した若者たちは、昔なら一年で覚え、熟<sup>ア</sup>レン<sup>ウ</sup>したことを、三年かからなくてはできなくなつたという。

いったい文明は進んだのだろうか。

こうした問いかけが繰り返され、私の胸の中へつきあげてくる。戦争が終わつたとき私たちは二度と戦争を繰り返すまいと心に誓い、

C

と働きつづけてきた。そして今、汚れた空気、汚れた水の中で、みせかけだけの金ぴかの鳥籠を飾り、みずからをそこへ閉じ込め、唄を忘れたカナリヤのようにもがいている……といったらいいすぎだろうか。

D

私にはこのきらびやかな現代が、一皮めくれば汚濁に満ちた暗い地獄図のように思われてならない。

そして、さらに私を愕然<sup>がくぜん</sup>とさせたのは、東北地方の若い母親たちが、地域で開かれた若妻会でこう発言したという事実である。

「赤ん坊だもの、子守唄うたつたつて仕様ねえス」

その場に出席した講師がショックを受け、私に聞かせてくれたのだが、私も

E

の寒くなる思いがした。生命の尊厳をこれほど<sup>イ</sup>ブ辱<sup>ウ</sup>した言葉はない。この底の浅い合理主義で育てられた子が、やがて母親が老いたときという言葉

が聞こえるようである。

「婆さまだもの、生きていたつて仕様がねえス」

ちょうどその頃、たまたま下の娘がまだ二歳で保育園の赤ちゃん部屋で、羽仁協子さんからわらべ唄の指導を受けていたのだが、ある日、こんな遊びを覚えて帰ってきた。

ここはじいちゃん にんどころ

ここはばあちゃん にんどころ

ここはとうちゃん にんどころ

ここはかあちゃん にんどころ

ここはねえちゃん にんどころ

だいどう だいどう

くちゆくちゆくちゆ

私は二歳の娘が自分のおでこや、ほつぺたや鼻をつぎつぎ指しながら遊んでいる姿をみて、そんな唄があつたのと感じていたが、突然、<sup>F</sup>これは大変なことだと思つた。

秋田にもこのわらべ唄は残つていて、にんどころを寝んどころとうたうという。ではにんどころとは寝所ねんどころのことだろうか。わらべ唄はうたい継がれて行く中で、意味がわからなくなる言葉があり、これもその一つだけれども、赤ちゃんを抱っこして、ほつぺたやおでこをつつついてうたうということであれば、これは似たところという意味ではないかと思つたのである。

ところが最近、古い言葉で洞まぐらとは家門、一族という意味があるときいた。だいどうだいどうというのが大洞なら、大きな一族になる。もし大同という意味なら、大勢が一つになるという意味や、天下が榮え平和になるという意味にもなることがわかつた。とすると、このはやし言葉は、生まれた赤ちゃんを祖先から受けつがれた命として一門の中に加え、

祝福し、仕合わせをねがった言葉として受け取っていいのではないかと思う。そうなるとにんどころは、G 似たところと考えてよいのだろうか。

赤ちゃんが生まれたとき、親や親戚友人一同が見舞いに来て、H いう言葉は決まっている。「まあ、この子はおとうさん似だ、鼻がそっくり」とか、「あごはどうみても、おばあちゃん似だね」とかいう言葉である。

いう方も聞く方もあまり日常的なことで、少しも意識していないけれども、こうした言葉ほどひとりの赤ちゃんの生命がI と祖先から受け継がれたものであることを語っている言葉はない。そして母の腕に抱かれ、ここはじいちゃんにんどころとあやされて育った子は、自分でも知らないうちに、生命の重みを知るのではなからうか。じいちゃんが、ばあちゃんがあり、とうちゃんがあり、かあちゃんがあり、姉ちゃんもいて、そして自分が存在すること、自分が木の股から生まれたのではないということ、良くも悪しくも受け継がれた血をからだの中に持っているということを知るのではないだろうか。

そう考えていくとき私はこのわらべ唄が大切に思われてならない。抱きとった赤ちゃんの重みを、受け継がれていく生命の重みとして受けとめてきた私たちの祖先のころがそこにあるように思われるからである。

松谷みよ子『民話の世界』より一部改変

問1 波線部ア「レン」と同じ漢字を用いるものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

ア「レン」

- ① この歌集には、悲レンの歌が多く詠まれている。
- ② 課題に取り組むときには関レンする情報にも目を配るとよい。
- ③ 生活が厳しいのでできるだけ低レンなものを買ひ揃える。
- ④ あの人の言葉遣いはとても洗レンされたものであった。
- ⑤ 中世ヨーロッパには、すでにレン金術が発達していた。

問2 波線部イ「ブ」と同じ漢字を用いるものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

イ「ブ」

- ① 文ブ両道を目指している。
- ② 一寸の虫にも五ブの魂。
- ③ 本の売り上げが百万ブに到達した。
- ④ 試合に勝ったチームの応援団は狂喜乱ブした。
- ⑤ 彼に対して軽ブの念を抱く。

問3

空欄

・・

び、その番号をマークしなさい。

に入る語句の組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から一つ選

- ① B―なるほど    G―やはり    H―まず    ② B―なるほど    G―まず    H―やはり
- ③ B―まず    G―やはり    H―なるほど    ④ B―まず    G―なるほど    H―やはり
- ⑤ B―やはり    G―なるほど    H―まず

問4

空欄

に入る語句として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 財布    ② ところ    ③ 背筋    ④ はらわた    ⑤ 頭

問5

空欄

・

をマークしなさい。

に入る語句の組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号

- ① C―営々    I―悠然    ② C―淡々    I―営々    ③ C―堂々    I―連綿
- ④ C―営々    I―連綿    ⑤ C―淡々    I―悠然

問6

傍線部D「私にはこのきらびやかな現代が、一皮めくれば汚濁に満ちた暗い地獄図のように思われてならない」とはどういうことか。その説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 文明が進み、近代的な建物が立ち並び街並みは美しく輝いているが、現実にはいまだにそこに戦争の爪痕が隠されているということ
- ② 文明が進み、人々の生活は美しく輝いているように見えるが、そこで暮らす人々の心には以前のような豊かさや美しさが失われもがき苦しんでいるということ
- ③ 文明が進み、物質的には豊かな生活を手に入れたが、その反面大気汚染や水質汚染などの公害によって人々の暮らしが脅かされているということ
- ④ 文明が進み、人々の暮らしが豊かになった反面、ものの考え方が合理主義的になり、再び戦争が起きてもおかしくない状況が迫っているということ
- ⑤ 文明が進み、美しく輝く生活を手に入れたように見えるが、子供たちの遊びが変わり子供たちが不器用になり社会生活に適応しにくくなったということ

問7

傍線部F「これは大変なことだと思った」理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① このわらべ唄が、現代の核家族化した家族の在り方に警鐘を鳴らしていることに気がついたから
- ② このわらべ唄が、秋田など一部の地域にしか残っていないことに危機感を抱いたから
- ③ このわらべ唄が、赤ちゃんの生命の重みを伝える重要なメッセージを持っているのではないかと直感したから
- ④ このわらべ唄が、赤ちゃんの生命の重みを伝える重要なメッセージを持っていることに納得したから
- ⑤ このわらべ唄が、底の浅い合理主義で子育てを考えている若い母親たちのいる東北地方のものだと知ったから



問8

傍線部A「私たちが取り戻さねばならないものがある。それはわらべ唄である」について、本文の内容から筆者が考える理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 現在忘れ去られているわらべ唄というものは、生命の重みや尊さがそこに込められているものなので、生命が軽くみられる今こそ取り戻さなければならない。
- ② 現在忘れ去られているわらべ唄は、戦争で廃墟となった世の中をきらびやかなものに復興させた大切なものだから取り戻さなければならない。
- ③ 現在忘れ去られているわらべ唄は、多忙な現在の中でできるだけ合理的に子育てをするために有効なものなので取り戻さなければならない。
- ④ 現在忘れ去られているわらべ唄は、子供たちの指先を器用にする効果を持っているものだから、これから子供たちが生きていくためにも取り戻さなければならない。
- ⑤ 現在忘れ去られているわらべ唄は、私たちの祖先の思いを受け継いでいくものであり、その中には子供の生命の重みを知らせるものもあるので取り戻さなければならない。

## 第二問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

食事のとり方については、永年いろんな説が錯綜さくそうしている。

一般に多いのは、一日三食説だ。ことに朝食を重視する論者が多い。こういう人はほとんど早寝早起説である。あの意味で道德的というか、教育的な傾向が目立つ。

なかには極端な説をとなえる人もいる。私が読んで

A

のは、「朝食をきちんとならない子は不良になる」と

いう意見だった。栄養不良ならともかく、不良少年の原因を朝食抜きにしてしまうのは問題だろう。もつともそのかたの説は、朝食を家族そろってちゃんととらないような家庭は、健全でないという考え方にもとづいている。朝食をとることが健康な家庭生活のしるしのように見なされているのだ。

私の大学時代の友人の一人に、古風な文学青年がいた。中年を過ぎても

B

めいた暮らしを続けていた。奥さ

んはついに愛想をつかして、子供を残して家を出ていった。それでも彼は毎晩、酔っぱらって帰ってきて、ぶつ倒れて寝てしまうような暮らしを続けていた。

ところが残された男の子が、すこぶる出来た子に育つて、なにくれとなく親父の面倒をみる。早朝から新聞配達をし、父親の枕元にちゃんと朝食を用意して学校へいく。働きながら勉強を続け、国立大学を出て一流の企業に就職した。自分だけでなく、父親の朝食まで用意するという出来た子だったのである。

たしかに朝食というのは、規則正しい生活とか健全な暮らしのシンボルみたいなものだ。早寝早起きと共に、

C

がそこにはある。

しかし、日本人が一日三食の暮らしになったのは、近代以後であるらしい。もちろん古代人は食べられるときに必死で食べていたはずだ。D 必ずしも朝食が必須とは思えない。三食主義の背後には、どこか国民道徳の気配がないでもないのである。

実際に健康という面から考えてみるとどうか。

人は習慣の動物である。一日三食でも、一日一食でも、それに慣れば体もそれなりに対応する。年齢ということもある。育ち盛りの少年と、80歳をこえた老人とでは運動量もちがうし、日々消費するエネルギーもちがう。

私の考えでは、ソウネン期を過ぎたら少しずつ食事の量を減らしていくのが自然のような気がする。つまり動的に考えたほうがいいのではあるまいか。

規則正しい生活。

ほとんどの健康本が、例外なくそれをすすめている。決まった時間の食事。決まった時間の就寝。そして早起き。私の友人の一人に、絵に描いたような健康志向の作家がいた。物書きにしてはめずらしいタイプだった。

ヨフかしなど決してしない。リズムのある規則正しい生活を送っていた。

ある時、彼を含めた友人知人と外国旅行をしたことがある。

その中で、時差に苦しんで旅行中ずっとユーウツな顔をしていたのが、彼だった。ふだんの規則正しい生活のリズムが、すっかり狂ってしまったのだ。

私たちの子供の頃、よく「非常時」という言葉をきいた。戦争の時代、ということだろう。いわば私たちの世代は「非常時の子供」だったと言っている。

いつ空襲があるかわからない。やがて少年兵として戦争に駆りだされるだろう。そんな非常時には、規則正しい生活などというのは無理だった。いわば E の子なのである。

だから外国へ行っても、時差などほとんど気にならない。その国、その土地の生活リズムに合わせて行動する。

規則正しい食事、規則正しい生活、などと聞くと、なぜかブローラーのニワトリを想像してしまう。

以前、岩手の牧場を訪れたことがある。鎖につながれた牛たちを、一定の時間になると裏庭に出して運動させる。カラ傘の骨のような木の枠があつて、それがぐるぐる回るのだ。一頭ずつその枠につなぐ。スイッチを入れると木の枠が自動的に回転する。鼻輪をくくりつけられた牛たちが、引っぱられながらグルグル歩きはじめる。これが運動とは、と、ため息が出た。自動運動機とでもいうのだろうか。一日に何回か決まった時間に餌をやり、決まった時間に規則正しく運動させる。はたして F はわからない。

一日三食も、一日一食も、慣れの問題ではあるまいか。三食食べれば三食型の体に、一食にすれば一食型の体になつていくのかもしれない。

とりあえずこのところは、結果的に一日一食半程度に落ちついている。これが体にどういふ影響をおよぼすかは、まだわからない。それにしても、一日一食半でも体重がほとんど変わらないのは不思議だ。

(五木寛之『健康という病』より一部改変)

ブロイラー……食肉用の若鶏。

問1 波線部 a 「ソウネン」について、「ソウ」と同じ漢字を用いるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 汚れた部屋を入念にソウジする。
- ② これまでの仕事の成果をソウカツする。
- ③ 自然の風景のソウダイさに圧倒される。
- ④ 担当の刑事が複雑な事件をソウサする。
- ⑤ 規定により留置者を本国にソウカンする。

問2 波線部b「ヨフ」について、「フ」と同じ漢字を用いるものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 作文をしつかりとテンサクする。
- ② 銀食器に紋章のコクインがある。
- ③ 勝利の記念にシユクエンを催す。
- ④ 契約をコウシンするか迷っている。
- ⑤ お茶を飲みながらダンショウする。

問3

空欄

A

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 額に汗した
- ② 首をすくめた
- ③ 耳が痛かった
- ④ 食指が動いた
- ⑤ 後ろ髪を引かれた

問4

空欄

B

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 理知派
- ② 耽美派
- ③ 白樺派
- ④ 浪漫派
- ⑤ 無頼派

問5  
空欄

C

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 文学的な健康の様相
- ② 良き国民のイメージ
- ③ 懐かしき友人の虚像
- ④ 古き良き家庭の虚構性
- ⑤ 古風な青年のヒーロー像

問6  
空欄

D

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 道徳的な立場からでなく、食事を考えると
- ② 習慣的な立場からでなく、国民を考えると
- ③ 通史的な立場からでなく、医療のあり方を考えると
- ④ 健康的な立場からでなく、戦争そのものを考えると
- ⑤ 懐古的な立場からでなく、平和というものを考えると

問7

空欄

E

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 貧困
- ② 昔日
- ③ 乱世
- ④ 日本
- ⑤ 近代

問8

空欄

F

に入る最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① その牛たちが健康であるかどうか
- ② その習慣が規則的であるかどうか
- ③ この機械が近代的であるかどうか
- ④ この運動が自動的なものであるかどうか
- ⑤ このため息が慣れの問題であるかどうか



## 第三問

次の本文を読んで、以下の設問に答えなさい。

新しい様式を創造するということは、美術における進歩の中核的な意義である。

美術における進歩は、科学の進歩などとは趣を異にしている。科学は前の成果を踏み台として、後のものがその先へ出るのであるが、美術においては優れた成果は必ずしも後のものの踏み台とはならない。それぞれの傑作は、すべて特殊な、ただ一回的なもので、そこから先へ行けない「絶頂」のような意味を持っている。たとえばギリシアの彫刻とカルネッサンスの絵画とかのように、同じやり方ではどうしてもそこから先へ出られないものである。同じやり方をすれば必ずエピゴーネンになってしまう。だから美術に進歩をもたらそうとすれば、先のものが見のこした新しい美を見だし、それに新しい形づけをしなくてはならない。それが新しい様式の創造なのである。

そういう創造のことを考えるごとに、私はいつもミケランジェロの仕事を思い出す。彼の作品が実際私に <sup>ア</sup> 印象を与えたのである。ギリシア彫刻の美しさや、その作者たちのすぐれた手腕を、彼ほど深く理解した人はないであろうが、その理解は同時に、ギリシア人と同じ見方、同じやり方では、到底先へは出られぬということの、痛切な理解であった。だから彼は意識してそれを避け、他の見方、他のやり方をさがしたのである。すなわちギリシアの様式の否定のうちに活路を見いだしたのである。「形」が内的本質であり、従って「内」が残りなく「外」に <sup>あ</sup> 顕われているというやり方に対して、内が奥にかくれ、外はあくまでも内に対する他者であって、しかも内を表現しているというやり方、すなわちそれ自身において現われることのない「精神」の「外的表現」というやり方を取ったのである。従って作られた形象の「表面」が持っている意味は、全然変わってくる。それは内なる深いものを包んで、いる表面である。そういう

やり方で彼は絶頂に到達した。彼のあとから同じやり方を踏襲するものは、「何かを包んでいる表面」だけを作りながら、中が空っぽであるという印象を与える。同じやり方で彼の先に出ることはできないのである。ロダンが「何かを包んでいる表面」を思い切つて捨て、面を形成しているあらゆる点が内から外に向いているような新しい表面を作り出したとき、初めて近代の彫刻は一步先へ出ることができた。

そう考えてくると、新しい様式の創造には古い様式の重圧が必要だということになる。古い様式による傑作を十分に理解すればするほど、そこからの解放の要 イ 新しい道の探 イ が盛んになる。すなわちできあがった一つの様式のなかには、新しい様式を必然に生み出して行くような <sup>ウ</sup> 潜在力がこもっているのである。だからこそ過去の傑作の鑑賞や、その鑑賞を容易ならしめる美術館は、美術の進歩に重大な意義を担うことになる。それぞれの時代、それぞれの様式において、「絶頂」を意味するような傑作が、美術館に並んでいて、いつでも見られる、という社会にあつては、言わばそういう傑作の権威が君臨しているのである。そういう世界で幾分かでも独創的な仕事をするためには、右の権威の重圧をはねかえして、新しい様式をつくり出さねばならぬ。美術館はそういう運動の原動力となつていっているといつてよい。

(中略)

日本画の様式は、どこへでも通用し得るといふわけではない。西洋の文化を受け入れる大勢と、日本画の様式とは、調和しないであろう。たとえば洋風の建築に、桃山式の壁画をつけるわけには行かない。合理主義的法則的な建築様式は、<sup>エ</sup> 不規則的な気合いの統一の様式などを受けつけないのである。もしこれらを無理に結びつければ、そこに滑稽な「混合美術」が生まれてくるであろう。そういう不愉快な失敗の例は決して少なくないのである。

従ってここにまず必要なのは、それぞれの様式の相違、従ってその限定の理解である。それぞれの様式は、その背負っている伝統のなかで、純粹に、従って混合芸術に陥ることなしに、発展させられなくてはならない。がそれにもかかわらず、美術家の努力は、絶えずその伝統をはねのけることに向かっているのである。そういう否定の努力に際しては、伝統の異なる他の様式が、しばしば天啓的な示唆を与えることもあるであろう。それは混合ではない。新しい様式の創造である。

そういう例としてわれわれはマネーに対する浮世絵の影響をあげることができる。浮世絵の簡素な色調は、マネーを刺激して一つの新しい様式を生み出させたように見える。マネーの絵に対するとき、われわれはそれを感じざるを得ないのである。

マネーの晩年の草花の壁画もそういう印象を与える。マネーはここで西洋の風景画の伝統を超えて、日本の草花の屏風に見るような構図をもつて大壁画を作っているのである。横に長い壁画は、一面に池の水面をもつておおわれている。そこには水蓮の花が咲き、空と雲とが映っている。この画面を縦に区切っているのは、ただ二本の柳の樹の幹と、その枝垂れた枝とである。こういう単純な構図は西洋の壁画では初めてといつてよい。もちろんその単純な壁画も、マネーらしく丹念に塗り上げたものであつて、屏風の金地のようなものではない。そこには水が見え、空が見え、雲が見え、水蓮の葉や花が見える。見つめていればいろいろのものが見えてくる、深みのある面であつて、何物も描かれない面とはまるで違う。マネーは決して「描かれない面」を活かして使おうなどとはしていない。それはあくまでも洋画である。しかしわれわれはその前に立つて、まず第一に、日本画の草花の屏風と同じような、静かな気分を出した洋風の大壁画が、このように可能であつたということに、驚きを感じるのである。マネーはさらに同じような大壁に、同

じ池の秋枯れの景を描いている。ほかの小壁には夏の景色があつたと思う。日本画に通有な、四季の変化を描くという動機も、ここには働いているのである。この調子でなら、四季草花の図をもつて洋風建築の大壁を飾るということも、もはや不可能ではないのである。

しかしそれは、洋画と日本画との対立というような、伝統の異なつた様式の対立などの見られないフランスにおいてのことである。かかる対立の下に苦しんでいる日本では、この問題の解決には洋画家も日本画家もともに参加しなくてはならぬ。洋画家はマネーやモネー以上に日本画の伝統から示唆を受ける機会を持つてゐる。モネーの始めた草花の壁画のごときを、もつと突きつめて遂行することもできるはずである。とともに日本画家も、絵画の公共性について多くのことを洋画の伝統から示唆されてよいであろう。日本画における公共性の欠乏は、絵の具や技法に結晶している。線の微妙な発達とか、持続的な展覧に堪えない色彩や画布とかは、私室的な鑑賞が盛んであつた結果であろう。しかし日本画も古い時代にはそうではなかつたのである。それは法隆寺の壁画を描いて千年以上の持続的な展示に堪え、桃山時代の豪華な宮殿の障壁を飾つて三百年後に遺品を残している。日本画はこういう公共的性格を回復しなくてはならぬ。ただその場合に、過去の様式をそのまま襲用するのではなく、それをはねのけて新しい様式を創造するためには、洋画の伝統から多くの示唆を受けることができるであろう。このような努力が洋画と日本画との双方から行なわれて行けば、洋画と日本画との区別をのり超えた新しい様式も創造され得るであろう。それは両者の混合ではなくして新しい一つのものである。それは洋画の伝統と日本画の伝統とをいずれも否定しつつ、しかも両者の生命を生かせ、従つて二つの伝統を共に背負つたものとして現われるであらう。

それがどんな形に現われるか、私は知らない。知つていれば私がそれを創るであらう。そういう新しい創造は、天才

の仕事である。

しかしそういう天才を産み出すためには、洋画と日本画との双方の伝統が、その力を底まで發揮しなくてはならぬ。それには双方の伝統に属する傑作が、絶えずわれわれの上にその圧力を加えていなくてはならない。ここに美術館の重大な役目がある。美術館が民衆の目を開き、深め、一国の美術の水準をも高めて行くのである。それによつてやがて民衆が天才を呼び出すに至るであろう。

(和辻哲郎『埋もれた日本』より一部改変)

問1 傍線ア「そういう印象」とはどのような印象か、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「絶頂」のような美の様式という印象
- ② 新しい美の創造という印象
- ③ 優れた成果のエピゴーンという印象
- ④ 傑作は特殊な一回的なものであるという印象
- ⑤ 後のものの踏み台となる優れた成果という印象

問2 空欄

イ

に入る漢字として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 球
- ② 急
- ③ 救
- ④ 求
- ⑤ 究

問3

筆者はギリシア彫刻に対するミケランジェロの理解をどのようなものと思っているのか、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① ギリシア彫刻の美と同様な様式をふまえた進歩がなくてはならない。
- ② ギリシア彫刻は絶頂に達しているし、同じことをしても意味がない。
- ③ ギリシア彫刻に表された手法は旧式なもので、もうすでにすたれている。
- ④ ギリシア彫刻ほど優れていて手本にすべきものは他にない。
- ⑤ ギリシア彫刻は内なる深いものを包む表面である。

問4 傍線ウ「潜勢力」に該当するものは何か、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号をマークしな

さい。

- ① 古典に対する鑑賞力
- ② 何かを包んでいる力
- ③ 同じやり方を強いる力
- ④ エピゴーネンを良しとする力
- ⑤ 古い様式の重い圧力

問5 傍線エ「不規則な気合いの統一の様式」に相当するものは何か、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、

その番号をマークしなさい。

- ① 洋風の建築
- ② 桃山式の壁画
- ③ ギリシア彫刻
- ④ 独創的な新様式
- ⑤ 重圧として感じられる古い様式

問6 傍線オ「伝統の異なる他の様式」を表しているものは何か、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その

番号をマークしなさい。

- ① 伝統に対峙する混合芸術の様式
- ② 必要な重圧を内包する古い伝統の様式
- ③ 傑作の君臨する伝統にあらがうための新様式
- ④ 新様式を創り出す発想を与える別の伝統様式
- ⑤ 伝統の重圧をはねのける内なるエネルギーの様式

問7 傍線カ「この問題の解決」のために必要なものは何か、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号

をマークしなさい。

- ① 洋画と日本画との対立を深く認識すること
- ② 洋画と日本画の伝統を脱却した方法論の発明
- ③ 洋画と日本画の双方から他の様式を学ぶ努力
- ④ 洋画と日本画の交流から見出せる公共性の回復
- ⑤ マネーやモネーのように日本画に影響された西洋画の必要性



問8 傍線キ「美術館の重大な役目」とはどのようなものか、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、その番号

をマークしなさい。

- ① 常に美術品を当時のままに保管すること
- ② 世界中から集めた傑作を修理、保存すること
- ③ その時代時代に君臨する様式を展示すること
- ④ それぞれの時代様式を学問的に整理し、展示すること
- ⑤ 各時代及び別系統の伝統に属する傑作を万人に提供し、美術の発展に寄与すること

問9 傍線ク「民衆が天才を呼び出すに至る」とはどういうことか、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、そ

の番号をマークしなさい。

- ① 民衆が天才と呼ばれる人を尊敬し始める。
- ② 民衆の中から伝統の重圧を調整する天才が現れる。
- ③ 民衆が美術への理解を深め、その中から革新的な天才が生まれる。
- ④ 民衆の中から他の追随を許さない天才が自然発生する。
- ⑤ 民衆の求めに応じて旧来の伝統を正確に受けつぐ天才が現れる。